

*「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



「友情のクリスマス」キャンペーンが ウクライナと日本の子どもたちをつなぐ

「チェルノブイリの人質たち」基金 理事
エヴゲーニヤ・ドンチェヴァ

日本の子ども達は、毎年クリスマスカードを送り続けることで、ウクライナの同年代の子ども達を25年にわたって励ましてきました。一つ一つの封筒には「元気でね」「頑張ってるね」「皆さんとともに」と書かれています。私たちの基金は、これらのカードをジトーミル州の小児病院・寄宿学校・サナトリウム・幼稚園や学校に配布してきました。



私たちは今、「友情のクリスマス」キャンペーンの主催者として、ジトーミル州の学校の生徒たちに参加を呼びかけます。絵やカードは個人またはグループ（たとえばクラス全体）で作ります。絵などの作品はカード大の大きさにし、子ども達はまた自分の名前や住所・年齢と学校名を書きます。キャンペーンの結果、州内の44の学校と医療施設から、約800通のカードが集まりました。多くの子ども達は、友情が長く続くように、日本の同年齢の子ども達との文通を希望しています。

一方、正月を前に「チェルノブイリ救援・中部」から、日本の子ども達の作ったクリスマスカードの最初の小包が届きました。ほとんど1か月の間ずっと、私たちは、学校・幼稚園・病院に日本の子ども達からの挨拶のカードを送り、私たちの遠い国の友だちについて話しました。ジトーミル市内の学校は、今年冬休みが長かったので、2月初めにカードを受け取ります。学校の先生や病院の教育係の方たちから、たくさんの感謝の電話がありました。彼らは、日本の子ども達とその親御さんたちの作品に、本当に感激しています。ウクライナと日本は、およそ8,000km離れていますが、ウクライナと日本の子ども達の友情はその距離によって割かれることなく、彼らの心は交流と愛情・思いやりの気持ちに対して開かれています。そして大人たちの願いは、その力添えをすることです。

〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター B1

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部（店番号 150）

□ 座 番 号：普通 6949211

□ 座 名 義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便 振 替：00880-7-108610

T E L / F a x：052-732-7172（月・水・金 10:00 ~ 17:00）

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

【クラウドファンディング・READY FOR】達成!!



昨年 10 月末にスタートした「READY FOR…チェルノブイリの小児病院の子どもたちに粉ミルクを届けたい！」プロジェクト。おかげさまで、公開から 90 日間で目標金額の 50 万円を超え、無事に達成することができました。達成金額は 514,000 円！ 総勢 49 名の方が、スポンサーとして支援してくださいました！

このプロジェクトを始めた当初は、まず「どんなページにすれば、サイトを見てくださった方が応援したくなるか」「私たちが一番訴えたいことは何だろうか」「ぐっとくるエピソードはないか」…。とにかく、ページを作り上げることで頭がいっぱいでした。無事に公開を迎え、ホッとしたのもつかの間。すぐに案内を出したり、友人知人に個別にメッセージを送ったり、ブログや facebook、ツイッターに投稿したり…と広報に忙しくなりました。

特に、残り 1 カ月を切ったところでは、3 日に 1 回は更新するなど、地道に発信すると反応があり、「見てくれている人はちゃんという！」と手ごたえを感じることができました。応援して下さる方の厚意を無駄にしないためにも、「何としてでも成功させるのだ！」と、なりふり構わずお願いしまくるという戦法が功を奏して(?)、無事にプロジェクト成功となりました。そしてこの金額以上に、新しくチェル救を応援してくれるスポンサーと出会えたことが嬉しく、今後の活動にとって大きな収穫だと思います！

応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

(兼松)

3.11 東日本大震災犠牲者追悼式 / 3.11 4 周年企画講演会

2015 年 3 月 11 日で、東日本大震災 4 周年を迎えます。昨年、「名古屋でも追悼式をやろう」と、被災者や避難者を支援しているグループが集まり、追悼式典を開催しています。2 回目となる今年も、昨年と同じく 3 月 11 日に久屋大通公園にて、犠牲者への追悼を目的として、献花・キャンドルでの追悼、2:46 と 18:46 に黙とうを行います。詳細は、決まり次第ホームページやブログでご案内いたしますので、ぜひお出かけください。追悼の気持ちがあれば、どなたでもご参加いただけます。また、この追悼式への賛同者も募集しておりますので、賛同して下さる方は、同封の賛同者申込書を FAX でお送りください。(賛同金は不要です。)



〈昨年のキャンドルでの追悼風景〉

また同日、式典終了後 15:30 より YWCA にて、4 周年企画の講演会を「未来につなげる・東海ネット」の主催で行います(チェル救も加盟団体として協力)。お話は細川牧場(飯舘村)の細川徳栄さん。こちらも詳しくは決まり次第、ホームページやブログでご案内いたします。追悼式と合わせて、ぜひお越しください。

夜は追悼式会場にて、キャンドルによる追悼を行いますので、講演会終了後、ぜひこちらにもお越しください。(夜のキャンドルだけの参加も可能です。)

少しずつ風化していく 3.11…。たとえ 1 年に 1 回であっても、この日だけは、あの衝撃を思い出し、犠牲になられた方の無念を思い、今も避難生活に苦しむ方々を思い、これからの社会の在り方を見つめ直す一日であってほしいと切に願います。(兼松)

「10年目のチェルノブイリ」と福島

— 連載 100 号によせて —

ポレーシェ創刊号は 1990 年 6 月、「チェルノブイリ救援・中部」発足から 2 か月目だった。この連載が始まったのはポレーシェ 29 号、1995 年 9 月からである。テーマは「チェルノブイリ 10 周年のウクライナの小児甲状腺がん」。現地訪問で入手したデータを使った。事故から 10 年経つと、放射能の様々な影響が明らかになっていった。連載 2 号は、事故処理作業者の病気について書いた。それから 20 年、今後の福島を占う参考になれば幸いである。

10 年目のウクライナの病気

当時のウクライナでは、放射能汚染地域に 55 万人の子どもが住んでいた。私たちが支援してきたジトーミル州ではそのうち 6 万人がいたが、州保健大臣パラモノフ氏によれば、15,000 人が甲状腺の異常を訴えていた。事故前の小児甲状腺がん患者は、10 万人当たり 0.1 人以下だった（データは事故前の 1981 年から存在）が、事故の 3 年目から増加が始まり、10 年目には事故前の 8~10 倍になっていた。

連載 2 号では、強制移住対象地域（閉鎖ゾーンと呼ばれている）に、なお住んでいる事故処理作業員や警官・兵士・消防士など、12,500 名の病気を取り上げた。これらの人々の健康は、軍が一括してコンピューター管理しており、報告書があった。それによれば、これら汚染地域労働者の病気は、特に心臓病や脳血管病が激増し、労働者の 4 人に 1 人が罹患していた。被曝線量との関係も明らかだった。

福島の子どもの甲状腺がん

2011 年の原発事故時 18 歳以下だった福島の子どもの 37 万人の甲状腺の検査結果は、2014 年 10 月現在、甲状腺がんおよびその疑いも含めて 112 名で、そのうち 85 名が手術を受けたという。10 万人当たり約 30 名となり、「10 年目のチェルノブイリ」の約 30 倍にあたる。因みに、事故前の 2008 年の福島県内の 19 歳以下の子どもの甲状腺がん患者数は 0 人だった（国立がん研究センター資料）。

同資料によると「2008 年、全国の 19 歳以下の甲状腺がん患者総数は 72 名」で、事故後の福島県の子どもの患者数を下回る。事故後、福島の子どもの甲状腺がんは明らかに増加しているのである。県や国は、

「この増加は『スクリーニング効果』で検査精度が上がったからであり、被曝の影響ではない」という。しかし、「この主張からすれば、この子ども達が 70 歳までに発症するはずの甲状腺がんを、事前に見つけたという計算になり、到底理屈に合わない」と指摘する専門家もいる。さらに深刻なのは、手術した 85 名のうち、良性だったのはたった 1 名に過ぎず、リンパ節への転移 17 名、肺への転移が 2 名など、緊急を要する患者がいたことである。

「事故から 4 年目を迎え、今後さらに増加するだろう」というのが、チェルノブイリの教訓である。

事故処理作業者の病気

チェルノブイリの事故処理にあたった作業員数は、全体で約 70 万人、そのうち 35 万人がウクライナ人である。事故から 10 年目の作業員の健康状態について、首都キエフ在住の 34,416 人について分析がある。健康な作業員の割合は、1991 年（22.2%）、1992 年（25.4%）、1993 年（10.5%）、1995 年（8.4%）と急激に低下し、1995 年には 91.6%が何らかの病気を抱えていた。

最も多いのは、血液循環器系疾患・消化器系疾患・神経感覚器官疾患・精神障害などであった。また、労働能力を失った障害者も増加した。これらの事故処理作業員の死亡率も、年平均 32%で増加し、1992 年には 10,000 人当たり 30.9 例だったが、1995 年には 70.8 例で倍増している。ウクライナ全体の事故処理作業員の死亡率も、ほぼ同じ傾向であった。死因のトップは悪性新生物、即ち癌であった。こうした事実が日本でも起こらないことを祈るばかりである。 （2015 年 1 月 29 日 河田）

南相馬便り

(神谷 俊尚)

☆チェル救南相馬事務所が2011年10月に開設されて、3年4ヶ月が経過しました。(2012年6月からとどけ鳥事務所と併用。)事務所前の空間線量は当時0.3 μ Sv/hでしたが、現在では0.16 μ Sv/h前後です。確かに、南相馬市内の平野部では、汚染マップに示される如く空間線量の低減は認められます。しかし、山沿いや山間部に居住し「避難区域」ではなく「特定避難勧奨地点」として指定された152世帯(約700名)に対して、政府は昨秋以降「地点指定解除」を通告してきました。10月は、住民の強い要望で延期を発表しましたが、12月21日に急遽説明会を強行し、高木洋介 内閣府原子力災害現地対策本部長(経産副大臣・公明党)が出席し、高圧的に「年間20mSv以下の目途が立ったので12月28日に指定解除する」と説明し、3月末で補償金の打ち切りを通告しました。しかし、多くの地点で確かに屋外の空間線量は低減していますが、除染をしていない室内は今も倍近くの線量があります。10月に提出した要望にも一切答えることなく出てきた通告に、「解除は、国の一方的な考え方・決定でしょう。目の前にいる(国側の)あなた達も人間でしょう?我々と同じ人間でしょう?我々の気持ちをくんでくれよ!」との叫びもむなしく、強行されました。(詳しくはブログ「福島 フクシマ FUKUSIMA」を参照してください。)解除後1ヶ月が経過しましたが、帰還した人はほとんどなく、先行きの見通しは全く立っていません。

☆とどけ鳥の12月~1月は、例年の如く検体数が少なく淋しい限りです。県内はじめ測定所全体の検体数減少傾向は、歯止めがきかないようです。野生の動植物を除いた、農業作物や家庭菜園の収穫物からの放射能検出が、かなり低くなりつつあります(p7参照)。しかし、土壤に吸収された放射能には、これからも長期に渡り注意を払い続けなければなりません。繰返し測定してから食する習慣を、長期的に維持する事が必要です。とどけ鳥は6月で3周年を迎えます。ボランティア一同、初心に返って「センター強化に向け、今何が必要か」を見直したいと考えています。

☆南相馬農地再生協議会は、一般社団法人として認可されたため、1月17日に設立総会を開催し、「一般社団法人南相馬農地再生協議会」として、新たなスタートを切りました。昨年、収穫した菜種の乾燥作業に手間取り、またロスをした教訓を踏まえて、今年は乾燥設備の充実を目指しています。「油菜ちゃん」の販売は、読者のご支援を始めとして少しずつ広がりを見せ、1月27日現在270g換算で2,600本強の納入を行いました。

また、6次化商品として、「油菜ちゃん」を使ったマヨネーズを製品化し、2月中旬、南相馬復興大学の報告会でお披露目をしようと、準備を進めています。それを契機にテスト販売を始め、6次化第1号商品に仕上げ、広めてゆくきっかけにしたいと考えています。

☆今年も、南相馬市と浪江町の空間線量測定を行います。今回は第9期になります。3月1日には、常磐道が全線開通します。川俣町~飯舘村コース、浜通り(浪江~双葉~大熊~富岡/国道6号から常磐道)コースと、往復で違ったコースを通りながら、復興の進まない現状も視察できます。(ただし、浜通りコースは、国道6号・常磐道とも、空間線量が部分的に高い場所を通過せざるを得ないことをご了承ください。)

小高区の「避難指示解除準備区域」が解除されるのは、来年4月の予定です。解除に向け小高区民の活発な動きが始まっています。おざなりな事しかできない行政に頼らず、駅前を中心に「自分たちの小高を取り戻す」活動が…。小高ワーカーズ(小高で起業サポートセンター)・双葉食堂(週4日開店)・浮舟の里(あすなろ交流広場)・きら希来きら(情報発信アンテナショップ)・交流広場・病院(週3日)・郵便局・銀行・商店…。

測定の時にご覧ください。

測定隊参加の詳細は、同封のチラシをご参照願います。お申し込みをお待ちいたします。

チェルノブイリ/フクシマ講座 第10回【料理講座】のご案内

～『油菜ちゃん』で作る やさい料理の会～

「油菜ちゃん」を美味しく食べて フクシマ支援

■日にち 2015年3月28日(土) 午前11時～午後2時30分

■場所 名古屋市東生涯学習センター 料理室

地下鉄「新栄町」下車1番出口より北へ徒歩5分

地下鉄「高岳」下車3番出口より徒歩8分

■参加費 3,000円(材料費込み)『油菜ちゃん(1本)』のお土産つき!

■お申し込み期限 3月20日(先着30名で締め切らせていただきます)

*エプロン・ふきんをご持参ください

大好評だった料理講座第2弾! 今回は、南相馬で農家を営みながら、菜の花プロジェクトを応援して下さる杉内和子さん・奥村早苗さんをお招きして、『油菜ちゃん』を使った、野菜たっぷりのお料理を教えてください。「油菜ちゃん」で揚げた天ぷらは絶品!と評判です!

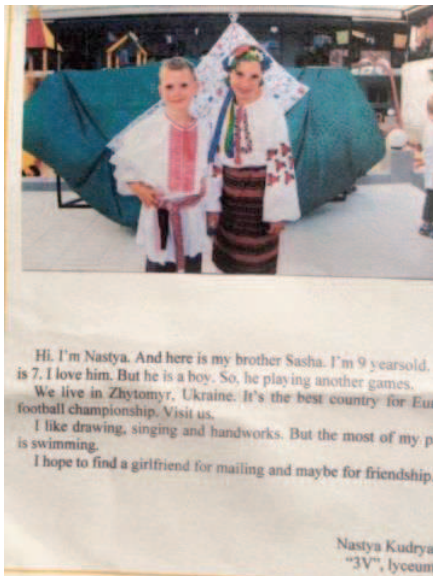
お二人のご主人は「南相馬農地再生協議会」のメンバー。南相馬の農業を誰よりも真剣に考えていらっしゃる方々です。原発事故から一変した農家の生活、想いなどいろいろお話をお聞きます。ぜひご参加ください!



<昨年の料理講座の様子>

心温まる一日でした

12月20日、静岡県のサレジオ小学校のクリスマス会にお招きいただきました。サレジオ小学校との出会いは20年前。当時の児童会の発案でチェルノブイリ被災者支援が始まったことがきっかけです。20年間、週に1回、食事を減らし、その分を寄付として、毎年このクリスマス会でいただいているのです。



<ウクライナからサレジオ小学校に贈られたクリスマスカード>

クリスマス会も終わりに近づいたころ、舞台上にいる生徒さんたちが、チェルノブイリの被災者のこと、支援のことをお話してくれました。20年経っても、被災者への思いをずっと先輩たちから引き継いでくれていることに、とても胸が熱くなりました。そして、事故から20年近く経って生まれた子ども達も、チェルノブイリの被災者を身近に感じてくれていることに、新鮮な驚きを感じました。20年前小学生だった卒業生の方たちも、きっと心にチェルノブイリの被災者を思い続けてくれているんだろうな、と嬉しい想像をしました。「忘れない」それが一番の支援なのだ改めて思いました。サレジオ小学校の皆さん、すてきな一日をありがとうございました。(市原 佳代)

「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」

…ここで暮らすために知りたい！ 知るために測りたい！…

岩手・宮城・福島の前北三県は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と、それに起因する津波により多大な被害を蒙り、本年 3 月で 4 年目を迎えようとしています。中でも福島県は、制御不能に陥りメルトダウンにまで至った福島第一原子力発電所から放出された、放射性物質に翻弄された 4 年間でもありました。



そのような中で、「放射能測定センター・南相馬」は平成 24 年 6 月に開設し、市民の皆さまから持ち込まれた検体数は、平成 26 年 12 月末時点で 8,085 件にもなりました。その間の実働日数は 509 日ですから、一日平均で 15.9 件の計測を行った事になります。

当センターは、10 時から 16 時までの 6 時間、測定装置 2 台で一検体当り 30 分かけて計測していますから、24 件/日がマックスとなります。実に 66.25%の高稼働率となっています。

これは市民の皆さんの、当初は「放射能という未知への不安」から、時の経過とともに「放射能汚染の実態を知りたい」という欲求、最近では、放射能により被害を受けた当地で、生活せざるを得ない以上「少しでもリスクを回避したい」という思いの表れだと感じます。



当測定センターがある南相馬市は、太平洋に面し、夏は浜風で涼しく、冬は降雪も殆どなく温暖な地域です。東北南部の福島県は、北方系と南方系の品種の狭間に位置している為に、豊富な品種の農産物や海産物に恵まれていました。また、阿武隈山系は、山菜類・きのこ類・川魚類などの宝庫であり、春の山菜狩り・秋のきのこ狩り・溪流釣りなど、四季折々の

の楽しみが多い土地柄でした。失って初めて知る故郷の豊かさという事でしょうか。

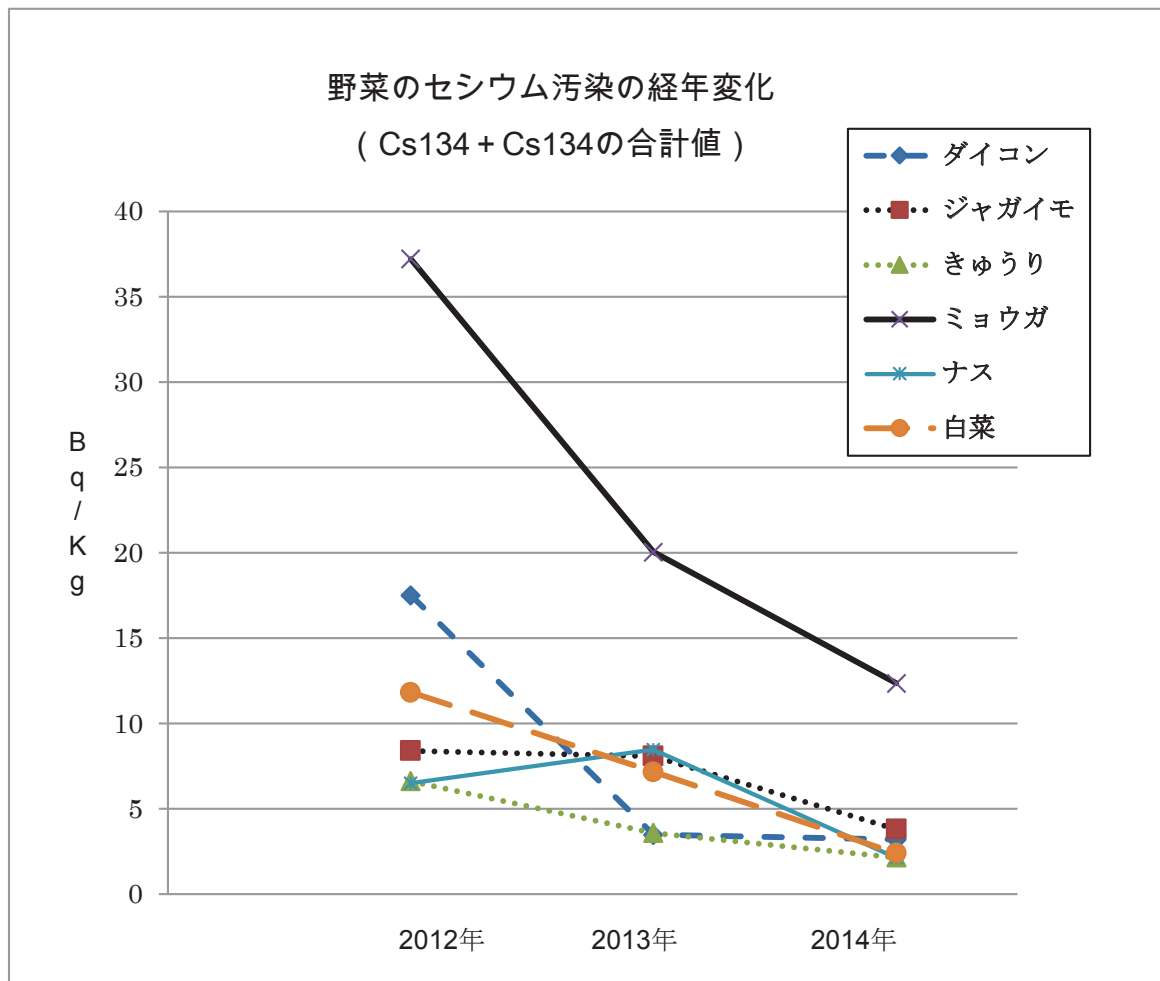
計測した結果を見てみると、時間の経過とともに放射線量は著しく低減している実態が伺われます。また食品基準値が 100Bq/Kg 以下であっても、セシウム 134 と 137 の比率や線形などの計測データを分析すると、『明らかに福島原発事故の影響を受けている』と見られる検体が多くある事は事実です。

原発事故の被災地で生活すると決めたならば、これらの事実と向かい合わなければならず、体内に放射性物質を取り込まない様に対応する姿勢が重要ではないでしょうか。この為にも、周囲の環境などに対し適切な判断を下すためには、放射線量を『測って、知る』という活動が引き続き重要な意味をもち、当測定センターの活動継続は必要不可欠なのです。引き続き、ご支援くださいますようお願いいたします。



(放射能測定センター・南相馬 小林)

*測定検体数が延べ 8,000 件を超え、全国的に見ても突出している「とどけ鳥」の活動。
 現在、これらの検体測定結果から見えてきた、汚染の実態や推移を、一冊のリーフレット
 にまとめる作業が進められています。乞うご期待！ 今回は、その中の 1 例を紹介します。



過去 2 年 8 か月にわたる測定結果のうち、検体数が 40 を超えている野菜 (6 種類) を例にあげて、経年変化を示す。全体として、年度の経過とともにセシウムの汚染程度は下がる傾向にあることがわかる。原因としては 2 つ考えられる。

- (1) 原発事故当初に放出された Cs137 と Cs134 の割合は 1 : 1 であったが、Cs134 の半減期が 2 年であるため、半減期に応じて低下した。
- (2) セシウムは、時間がたつとともに、土壌に強く吸着される事が分かっており、土壌中にはあっても植物には吸い上げられにくくなる。

いずれにせよ、事故当初から見れば汚染は大幅に低下している。ただし、検体によっては、平均値とかけ離れた高い値が出る場合があった。例えば、2013 年に持ち込まれた南瓜は 300Bq/Kg もあり、それ以前の平均値の 10 倍以上にもなったが、これは畑ではなく、空き地に自生したもので、雨による土壌中のカリウム濃度低下のため、セシウムの吸収抑制が効かなかったからだと考えられる。

このように、土壌の条件によっても汚染は大きく変わるので、今後も慎重に測定する必要がある。

特集!!

クリスマス カードキャンペーン (P1 から続く)

結果のご報告とお礼

(大川 翔矢)

皆様、クリスマスカードキャンペーンにご協力ありがとうございました。

今年度のクリスマスカードは、無事に、福島・ウクライナに届けることができました。そのご報告をしたいと思います。

今年度集まったクリスマスカードの総数は 2,870 枚です。今年もたくさんのカードが集まりました！ ありがとうございます！！ 皆さんが作ってくださったカードは、もらってワクワクするようなものばかりで、僕も事務所に届いたカードを、一枚一枚手に取ってチェックするのが楽しかったです。あと、折り紙ってすごいですね。何にでも変身できるのでびっくりです！ 折鶴ぐらいしか折れない僕には、衝撃的でした！

また、クリスマスカードは 12 月中に福島で配り終えて、1 月にはニューイヤーを迎えたウクライナでも配り始めました。クリスマスカードが届けられた様子を伝える写真も、続々と送られてきましたが、楽しそうに受け取っている笑顔なんかを見ると、やっぱり心のこもった活動って素晴らしいなと感じました。

僕がこのキャンペーンを担当したのは去年の 9 月頃、発送を終える 12 月までの間に、たくさんの方がこの活動に協力してくださいました。イベントや教会、子ども達から大人まで、本当に多くの方の気持ちが集まっているこの活動に関わって、僕自身も充実した気持ちでいます。今度は、僕から皆様にお礼状をお送りし、少しでも感謝の気持ちと受け取った人たちの様子が伝われば幸いです。

とどけ鳥スタッフによる「クリスマスカード手渡し配布」のご報告

とどけ鳥のスタッフが、サンタクロースとトナカイに変身し、少し早いクリスマスイベントが始まりました。

南相馬市内にある、冬休み前の幼稚園を皮切りに、12 月 17 日(水)3 ヶ所、22 日(月)6 ヶ所、23 日(祝)4 ヶ所、24 日(水)2 ヶ所と、幼稚園(3) 保育園(4) 老人施設(7)と油菜ちゃんて繋がった農業高校(1)の合計 15 ヶ所、1,143 名にカードが手渡されました。



カード配布の様子を写真で紹介します。
子ども達には、冬休みに入る前に手渡さなければいけません。一日に 6 ヶ所の施設を駆け巡る日もありました。

今年も、とどけ鳥サンタは、大忙しでした。

こんにちは、親愛なる日本の子どもと大人のお友だちの皆さん！

温かい、心のもった新年とクリスマスのお祝いのカードをありがとうございます！

私たちも、皆さんが平和な青い空、暖かい太陽、ゆるぎないご健康、ご家族のご多幸、それぞれの宿願の実現、調和に満ちた暮らしに恵まれるようお祈りします！

これらすべてに神の祝福があり、成功が伴いますように！

私たちの孤児院は、ウクライナのジトーミル市にあります。当院では今、0歳から4歳までの75人の子どもたちが生活し、養育を受けています。孤児と、さまざまな理由で親の保護を失った子どもたちです。

私たちの施設の仲のよいスタッフ・医師・看護師・教育係・保育師その他すべての職員は、皆さんの善意のお仕事について知っており、当院の子どもたちへのご配慮と思いやりにとても感謝しています！

敬意を込めて、孤児院院長 スヴェトラナ・ウルスレンコ
10014 ウクライナ
ジトーミル市コラベリナ通り8番地
ジトーミル州立孤児及び
親の保護を失った子どもたちのための特殊孤児院



平成26年12月24日

特定非営利活動法人
チェルノブイリ救援・中部 様

特別養護老人ホーム万葉園
施設長 菅原 武

クリスマスカード贈呈のお礼について

寒冷の候、貴団体においては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

今年も小学生からの心温まるクリスマスカードを届けていただき誠に有難うございます。例年頂いているカードは、日頃変化の少ない生活を送っている高齢者の皆様には何よりのプレゼントです。袋を開けてカードを見た瞬間、パッと弾けんばかりの笑顔を見せる方、「ほーたいしたもんだ。」としきりに感心する方、様々な感情が心にわいてくるこの瞬間は高齢者にとってかけがえのないものなのです。皆様の活動には心より感謝申し上げます。寒さ厳しきおり、体調にお気をつけいただき、よい新年をお迎えください。



拝啓

年の瀬を迎え慌ただしい時期となり、今年も残すところ僅かとなりました。

貴台におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、過日は、何かとご多忙のところ時間を割いて、長寿荘利用者の皆さんに、一足早いクリスマスカードのプレゼントを頂き、入所者一同、感激ひとしおでありました。誠に有難うございました。また、プレゼントカードを開封し、入所者皆さんの喜びの表情は、何物にも代えがたいクリスマスプレゼントとなり深く感謝を申し上げます。来年のクリスマスも楽しみにしながら、待ち望んでいるようでありました。

結びに、来る羊年は、未来へ羽ばたく輝かしい2015年になりますことを、心から祈念を申し上げ、御礼の言葉に替えさせていただきます。誠に有難うございました。

敬具

平成26年12月24日（クリスマスイブ）
特別養護老人ホーム長寿荘
施設長 志賀 敏伯



私たちは、チェルノブイリ被災者の心の支援としてクリスマスカードキャンペーンを25年四半世紀にわたり続けてきました。現在は、毎年秋になるとNたま研修生が事務所を訪れ、スタッフと一緒にカードキャンペーンのスタートから、様々な企画を手伝ってくれます。名古屋市内で開かれるワールドコラボへの参加、学童への出張など、たくさんのカード作り用小道具を持って出かけます。そして、ウクライナや福島へ配送する前には、「届けていただいた方へお礼状を送るためのリスト作り」「カードと折り紙などを袋に入れる」「配布先の人数に合わせて袋入りのカードの箱詰め」…それはそれは素晴らしい手作りのカードや、ちっちゃな画伯が描いたカードを見ながらの、忙しいけれど楽しい時間です。作業を手伝うスタッフは、受け取る人たちの笑顔を想像しながらの心温まる幸せな時間です。そして、一年が終わります。今年は名古屋から、とどけ鳥にカード配布の応援に行ってきました。たくさんの方たちを手渡し、たくさんお礼をいただきました。



たくさんお礼をいただきました。また今年もたくさんのカードを皆さんから送っていただき、作る人も、届ける人も、受け取る人も心温まる時間を共有できる企画を続けたいと思います。

皆様のご協力に心から感謝いたします。(美)



～事故処理作業者たちの今～

「障害者基金」 代表 ヴィクトル・ヤリノフスキ

現在、「障害者基金」のメンバーのリストには 60 名が入っており、そのうち 1 級障害者は 12 名、2 級障害者 38 名、3 級障害者 10 名です。活動開始時、2003 年 5 月には、団体のメンバーは 272 人で 12 年の間に 60 人に減りました。多くのメンバーが亡くなりました。また環境の汚染や、政府や大統領の公約が全く実現されないことで、多くの人が国外に出ました。ウクライナの保健システムは機能を果たしていないと言えます。

事故処理作業者の医療保障のために支出されている金額は、1 人 1 日あたり約 0.7 グリヴナ（現在のレートで約 5 円/日）です。私たちは長年にわたって、州行政や医療施設に、重病を治療する個別の病室や必須の医薬品を、チェルノブイリの事故処理作業者に提供してくれるよう、陳情を続けています。しかし、我々の陳情書や訴えに対し、誰も反応を示しません。

政府は、片手でチェルノブイリ被災者に希望を与えておきながら、もう一方の手で、その希望を取り上げているのです。事故処理作業者の健康と神経は、ますます打撃を受けています。

ジトーミル州慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」

代表 ポリス・アンドリイオヴィチ・チュマク(右)

1986 年 4 月から 5 月にかけての事故後の最初の日々、原子の竜巻がもたらした結果との闘いに、ジトーミル州の消防士たちも取り組みました。彼らによって、他の者たちが地球規模の惨事の事後処理に取り掛かることが可能になったのです。その数は 289 名でした。自ら進んで、人類を守るために、国から何の特典も報酬も求めることなく、危地に入っていった人々たちでした。そのうち 93 名は若くして亡くなりました。事故当時の彼らの年齢は 22 歳から 24 歳でした。死因は腫瘍・心臓血管疾患・骨の疾患などでした。今日、健康な事故処理作業者は一人もいません。すべての病気はチェルノブイリとの関連が認められています。



私たち消防士の事故処理作業者たちは、慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」を設立し、今日まで活動しています。寄付金で医薬品を購入し、亡くなった消防士の事故処理作業者たちの妻の金銭的な支援や、汚染地域に住み働いている事故処理作業者の子どもたちの支援をし、亡くなった事故処理作業者たちの葬式の世話をします。

また私たちは、事故処理作業者たちの定期的な健康状態のチェックのため、非常事態局附属の医療センターを設立しました。消防士の事故処理作業者たちと汚染地域で勤務する消防士たち、また彼らの家族は、すべての検査と処置を無料で受けることができます。「チェルノブイリ救援・中部」のおかげで、医療センターには必要な医療機器が配備されました。医療センターは今も成功裡に活動しています。必要な専門の医療スタッフは、ウクライナ非常事態局によって配備されました。

ロシアによって引き起こされた戦争と、国の厳しい経済事情により、事故処理作業者たちへの支援は、実質上危機的な水準にまで削減されました。そして、当基金への寄附も減りましたが、それでも私たちは事故処理作業者たちを守る活動を続けています。

事務局便り

私ごとで恐縮だが、年明け早々、不調が続いている。階段でコケるわ、胃腸風邪に罹るわ、拳句に今、インフルA。熱の出ない、変な!? インフルエンザで、私の身体は何と戦っているのか、よくわからない。熱が出れば、なかなか手ごわい相手と一戦交えているな...と実感できるのだが、何やら全体に「変」で、おしるし程度に熱は「もわっ」と来るだけで、気味が悪い。そんな中での事務局便り。どうも、つまらない繰り事になりそうなので、一通の年賀状に書いてあった、心深く響くロベルト・エベンハルトという人の詩を。

「敵を恐れることはない…敵はせいぜいきみを殺すだけだ。友を恐れることはない…友はせいぜいきみを裏切るだけだ。無関心な人びとを恐れよ…彼らは殺しも裏切りもしない。だが、無関心な人びとの沈黙の同意があればこそ、地上には裏切りと殺戮が存在するのだ。」
—今年も始まった。心引き締め、ヨーソーロー。 (山盛)

追・事務所を探しています。現在の契約は3月末まで。リーズナブルな物件情報、お寄せください!

手紙集「10年目のチェルノブイリ」再刊決定!!

チェルノブイリ原発事故から3~4年を経て、放射能による被害は増え始めました。今、日本では、福島第1原発事故から4年が経ち、放射能の子ども達に対する影響が、どのように表れるか心配されています。チェルノブイリの経験を、日本の多くのお母さんに知って欲しいと思い、この手紙集を再刊します。ウクライナのお母さんは、「私達を忘れないでくれたことに感謝します」と書いています。「お互いの身を案じあって」生きるその姿勢にも、学ぶことが多いでしょう。

(「再刊にあたって」チェル救理事長：原 富男)

現在、ボランティアと印刷機がフル稼働中です。文字を大きくして読みやすくしました。ご希望の方には、お分けすることができます。事務局にお尋ねください。(美)



編集後記

- ☆奮発してタニタの体組成計を買ってみた。体脂肪率だけでなく、骨量・筋肉量・基礎代謝量、そして体内年齢まで判定するすごい奴。これ一台あれば健診いらず? (佳)
- ☆他人のお祝いに赤い肌着を選んだことがある。今年は私に、と手渡す弟…。気にかけてくれたことへの感謝と、身に着けたことがない赤い肌着への照れ、満載! とても温かいよ。(美)
- ☆2015年(羊年)は、国際金融システムが激変し、世界中の仔羊たち(Sheepie)が目覚める年になる。あのヘンリー・キッシンジャーが、自分達の未来予想図(人類家畜計画)を語った有名な言葉…「将来的に、一般の人間が我々に刃向うのは、羊が農夫に刃向うのと同じくらい不可能になる」…。申し訳ないが、あなた達の計画は絶対に実現しない。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473